

パレードに総勢450人

コロナ前に戻る

高尾山 薬王院 春季大祭盛況に



真言宗智山派大本山高尾山薬王院(東京都八王子市)で21日、春季大祭が行われた。コロナ禍以前の様子を完全に取り戻し、山麓・山上でのパレードには総勢約450人が参加、新緑映える高尾山の参道を練り歩いた。

天蓋の下、練り行列を行う佐藤貫首(中央)と山伏姿の僧侶、職衆、総代ら

山麓から出発したパレードは山上の十一丁目茶屋前で稚児らと合流。大導師の佐藤秀仁貫首をはじめ、山伏姿の僧侶、職衆、総代、侍姿の高尾山慶賛会の会員、地元中学の吹奏楽部、ボーイ・ガールスカウト、八王子消防記念会などが長い行列を作り、登山客でにぎわう山中を歩いた。

佐藤貫首の頭上には大傘ではなく、天蓋が掲げられた。用いられるのは2022年4月の晋山式以来2年ぶり、佐藤貫首にとって大祭では初めてだという。

仏舍利塔での法楽、大本堂での大護摩供のほか、山門や御護摩受付所、大本堂の前で太鼓演奏やはしご乗り、獅子舞が披露された。

23年5月に新型コロナウイルス感染症がインフルエンザ並みの5類に移行してから初めての春季大祭で、制限がなくマスクも着用しないコロナ禍以前の姿に戻った。

犬山秀康執事長は「令和になって久しぶりに小さい子から壮年まで多くの方が長い列を作った。パレードを行うことができた。にぎやかな音が響いたことがうれしかった。大祭などを通して信仰の山としての高尾山を今後も継続して広げたい」と話した。(甲田貴之)

僧侶と対話、坐禅楽しむ

曹洞宗ことしもブース出展

アースデイ東京2024

市民に禅の意義発信



地球環境を考える市民「アースデイ東京」が13、14日、東京都渋谷区の代々木公園で開かれ、曹洞宗が坐禅や仏教の世界を気軽に体験できるブースを出展した。両日も多くの参加者がブースを訪れ、坐禅や僧侶との対話を楽しんだ。

アースデイは民族や国籍、党派などを超えて市民一人一人が地球環境を守る意志を示す国際連帯運動。世界各地で様々なイベントが開催され、東京では毎年、代々木公園で大規模なイベントが開かれている。

「人権・平和・環境」をスローガンに掲げる曹洞宗は2017年からブースを出展し、SDGs(持続可能な開発目標)とも親和性の高い仏教や禅の魅力を発信している。現在は、イベントの実行委員会にも名を連ねる。

今年のアースデイは、3532。

問い合わせはDXスコーパー電話03(6420)3532。

曹洞宗のブース「Earth禅堂」で坐禅を体験する参加者ら

は、30分の坐禅体験の前後にそれぞれ10分ずつ質問や意見交換など僧侶と対話できる時間を設けた。瞑想やマインドfulnessに親しんでいる人や、坐禅に興味を持ちつつも寺院の坐禅会に参加するのはハードルが高いと感じている人、ステイプ・ジョブズの影響でZENに憧れを持っていて人など多くの人で賑わい、両日も坐禅体験はほとんどの時間で満員が続いた。

曹洞宗総合研究センターの宇野全智・常任研究員は「禅はエコやSDGsという概念が生まれる数百年前から自然と共存する思想を説き続けている。イベントでいろんな方と話す中で、ますます禅の社会的意義が高まっているのを感じている」と話した。

イベントを通して、様々な団体や市民の方と対話できることに大きな意味がある」と話した。

シャンティ国際ボランティア会が協力するキッズスペースでは、子どもたちが塗り絵や民族衣装の着付けなどを楽しんだ。宗務庁が発行する『てらスクール』のブースでは、同誌のSDGsに関する記事を手掛ける中高生、大学生による展示が行われた。(奥西極)

香川県琴平町の金刀比羅宮は3日、御本宮近くの展望台にスマホとの連携や拡張現実などの機能を搭載し、旧来のイメージを刷新する次世代スマート観光望遠鏡「dXscope」を設置した。岸本庄平権禰宜は「キャッシュレス決済なので金銭管理も手間いらず。迷わずに操作している外国人の姿も見られる」と話した。月末まで無料で、5月1日から1回3000円(120秒)となる予定。

金刀比羅宮は785段の石段を上った所に御本宮が東向きに鎮座し、その北側に展望台がある。ランドマークとなる讃岐富士を中心

望遠鏡に映った景色そのままスマホに保存

次世代観光望遠鏡「dXscope」



「思い出づくりに一役」

に讃岐平野を一望でき、遠く瀬戸内海を望む。「dXscope」は高さを調節して電源QRコードをスマホで読み取り、決済すると起動し、手で上下左右に動かしてディスプレイに映る風景をズームで撮影できる。40倍光学ズームで天気の良い日には望遠で瀬戸大橋まではっきり見える。

最大の特徴は映し出された景色を撮影し、写真・動画を自分のスマホに保存できること。その場で友人とシェアして思い出づくりができる。プライバシーにも配慮し、AI技術を活用して人の顔は自動的にモザイク処理される。

そのほか、様々な機能をオプションで追加することも可能。展望の悪い雨の日には晴天時の映像を表示したり、屋間に夜景を表示させたり、また「拡張現実」機能を利用して映像内にキャラクターなどの画像を風景に重ねて表示したりする機能も準備中という。

岸本権禰宜は「当宮には『ごんびら狗』という犬のイラストがあるので、拡張現実で映像内に登場させたり、地域と協力して山の頂上や街中に目印となるものを配置してもらって利用者に探してもらおう仕掛けを作ったりすると、お参りをより楽しんでもらえるかもしたい」と語った。

販売元のDXスコーパーの今井文雄社長は「新しい技術で神社参拝がもっと楽しくなることを、日本そして世界のみんなに知っていただきたい」と語った。

問い合わせはDXスコーパー電話03(6420)3532。



讃岐平野を一望できる金刀比羅宮に設置された「dXscope」で撮影した瀬戸大橋の写真をスマホに保存できる

金刀比羅宮の展望台に設置

「企画特集」

「アースデイ東京」が13、14日、東京都渋谷区の代々木公園で開かれ、曹洞宗が坐禅や仏教の世界を気軽に体験できるブースを出展した。両日も多くの参加者がブースを訪れ、坐禅や僧侶との対話を楽しんだ。

アースデイは民族や国籍、党派などを超えて市民一人一人が地球環境を守る意志を示す国際連帯運動。世界各地で様々なイベントが開催され、東京では毎年、代々木公園で大規模なイベントが開かれている。

「人権・平和・環境」をスローガンに掲げる曹洞宗は2017年からブースを出展し、SDGs(持続可能な開発目標)とも親和性の高い仏教や禅の魅力を発信している。現在は、イベントの実行委員会にも名を連ねる。

今年のアースデイは、3532。

問い合わせはDXスコーパー電話03(6420)3532。

曹洞宗のブース「Earth禅堂」で坐禅を体験する参加者ら

は、30分の坐禅体験の前後にそれぞれ10分ずつ質問や意見交換など僧侶と対話できる時間を設けた。瞑想やマインドfulnessに親しんでいる人や、坐禅に興味を持ちつつも寺院の坐禅会に参加するのはハードルが高いと感じている人、ステイプ・ジョブズの影響でZENに憧れを持っていて人など多くの人で賑わい、両日も坐禅体験はほとんどの時間で満員が続いた。

曹洞宗総合研究センターの宇野全智・常任研究員は「禅はエコやSDGsという概念が生まれる数百年前から自然と共存する思想を説き続けている。イベントでいろんな方と話す中で、ますます禅の社会的意義が高まっているのを感じている」と話した。

イベントを通して、様々な団体や市民の方と対話できることに大きな意味がある」と話した。

シャンティ国際ボランティア会が協力するキッズスペースでは、子どもたちが塗り絵や民族衣装の着付けなどを楽しんだ。宗務庁が発行する『てらスクール』のブースでは、同誌のSDGsに関する記事を手掛ける中高生、大学生による展示が行われた。(奥西極)